

2025年度

学校名 相模原市立谷口台小学校

対象学年 第2学年

1 学習指導案

プログラム	No.3 「よくよく見れば、あの場所に」
単元名 (全10時間)	とび出せ！町のたんけんたい
学習のねらい	生活科の学習での町たんけんのきっかけとし、普段何気なく見ているまちの景観を新しい着を深めるようにする。また、自分たちが見つけた「まちのおすすめ」を発信したり伝え合ったりすることの楽しさを味わうようにする。
学習内容	1 出会い：自分の学区に何があるのか発表しあう。(素材との出会い) 2 深める：町にあるおもしろいと感じたものの写真を撮り、タブレットPCで紹介カードを作成する。 3 気づく：自分が作成したカードを友だちと出し合うことで、まちには色々なところがあることに気づく。 4 味わう：じぶんたちのまちには"おもしろい"ものがたくさんあることを知り、まちへの愛着をもつ。
参考資料 準備品 実施場所等	準備物 タブレットPC ワークシート 筆記用具 実施場所 通学路 教室 学区






学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	○自分の町について知っていることを紹介し合う活動を通して、町への関心を経っ噛める。	○模造紙にまとめていき、地区によって様子が違うことに気づかせる。	○まちの景観や学校にあるものについて興味をもって、調べようと考えている【主体的に学習に取り組む態度】
2～ 3	○町探検について、どんなことを見たいのかを相談して町探検の見通しをもつ。	○人やもの、建物に着目させつつ、持ち物や交通ルールを確認する。	
4～ 5	○町探検に行く。 ○町探検で見つけたものを観察カードにまとめる。	○"おもしろい"と感じたものはメモをして、どうしてそう感じたか自分なりの理由を持つようにする。	○色々な見方があって良いこと、また友だちの見つけた良さや面白さに共感できるようにする。
6～ 8	○観察カードをもとに、宿題で撮ったお気に入りの場所の写真を地図に貼って、クラスで地図をつくる	○自分の"おもしろい"と感じた場所やものをなぜおすすめしたのか発表できるように準備する。	○学区内の地図に、おすすめする場所の写真を貼る。おすすめする理由をまとめる【知識・技能】
9～ 10	○まちで見つけたおもしろいものの発表会を開催する。 ○これまでの活動を振り返り、学習のまとめをする。	○どこに何があるのかだけでなく、その場の風景や景観を構成しているものには様々なものがあることに気付かせるようにする。	○おすすめする場所をカードを使って発表することができる。【思・判・表】

<留意点>

2 事業実施報告書詳細

学校名 谷口台小学校

時間数	場所	概要	活動記録 (写真)	対象者の反応
1	教室	○自分の町について知っていることを紹介し合う活動を通して、町への関心を経っ噛める。		自分の知っているところを挙げていく中で、別の地区は知らないことが多いことに気づく。
2～3	教室	○町探検について、どんなことを見たいのかを相談して町探検の見通しをもつ。		公園にフォーカスして違いを調べようと意識をもつ
4～5	校外	○町探検に行く。 ○町探検で見つけたものを観察カードにまとめる。	 	2つの地区の公園を比較して、どんな違いがあるの考えた。そこから、2つの地区の様子を比較して、次は町の様子について調べたいという気持ちを持ち始めた。
6～8	教室	○観察カードをもとに、宿題で撮ったお気に入りの場所の写真を地図に貼って、クラスで地図をつくる		自分たちの町にはいろいろな店や建物があることを知り、自分の知らない場所などを知り、詳しく知りたいと思う。
9～10	教室	○まちで見つけたおもしろいものの発表会を開催する。 ○これまでの活動を振り返り、学習のまとめをする。		みんなに伝えることを通して、そこで働く人や住む人のことも知りたいという気持ちをもった。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、常に新しい疑問や知りたい気持ちをもたせるために発問を考え、子どもからの質問に対しても「どうだと思う？」など子どもが考える場面を多くした。</li> <li>・全体を大きく捉えて見ようとするのではなく、ある箇所をズームして切り取る見方をするようにした。</li> <li>・「おもしろい」という捉え方は一人一人違って当たり前で、どんな見方や感じ方でも「その人らしさ」が表されてよいということを理解するようにした。</li> <li>・町歩きや公園で「おもしろい」ものを見つけるときには、時間を十分に確保すると共に、サポートする大人を増やすことで子どもたちが安心して探することができる体制を整えた。</li> </ul>
<p>(2) 実施にあたり苦勞した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生という発達段階で疑問をもたせることに、「より詳しく知りたい」「どうすればいいかな？」などひ対しての解決方法を見出させることが難しく、教師主導になってしまう場面が出てきてしまった。</li> </ul>
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何事にも意欲があり、「すごーい」「僕も行ったことあるよ」「今度行ってみようかな」など自分の経験と結びつけたり、自分の生活につなげようという意識が見られた。また、発表活動で終わらせることで2学期の町探検への課題設定や知りたいという気持ちを持つことができた。</li> </ul>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>自分たちの身の回り（学校や地域）には「おもしろい」「しりたい」ものがたくさんある事に改めて気づくことができた。また、「他には何かないだろうか？」「学習につなげられそう」と興味関心をもって学校の中や地域を見るようになった。子どもたちとも学校や地域にあるものに対して、価値付けることができた。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み（児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等）</p> <p>1学期は公園から考えさせたが、2学期は人にポイントを絞っていき、相模大野の町の良さについていろいろな視点から考えさせていきたい。</p>